

2017年(平成29年)

3月8日

第437号 (毎週水曜日発行)

(株) 高齢者住宅新聞社

〒104-0061
 東京都中央区銀座8-12-15
 ☎03-3543-6852(編集部)
 発行人 西岡一紀
 年間購読料 22,680円(送料込・税込)

ホームページ

<http://koureisha-jutaku.com>

介護 B i z

第20回 お寺とまちづくり



～日本版CCRCを考える～

「この前、ラグビートップリーグで優勝したサントリーの沢木監督をご存知ですか。男鹿出身の彼はこう言っています。『自分はいいい指導者ではないが、いい人になろうとは思わない』って」

こう語るのは秋田県男鹿市の中心地に位置する、あるお寺の住職です。沢木監督の地元の先輩にあたるようですが、日頃から周囲には「住民のためにいい仕事をするために集中せよ。いい人になろうと思っただけだ。仕事をすることで人に嫌われるのを恐れるな」と言っている。わが意を得たりとの思いでした。

私は以前から、お寺は地域コミュニティの拠点になるべきだと訴えてきました。檀家の家庭環境をよく知るお坊さんは地域住民のことを把握している。ならば「葬式仏教」などと言われないよう、

お寺をコミュニティの拠点に

宗教家ももっとまちづくりに関わらないと、その存在意義が問われると思っていたからです。

私の母は信心深く、子どもの私を連れて、お寺の講話をよく聴きに行っていました。彼女は樂觀的というか、諦観しているというか、物事をいい方法に考える。岩手県で暮らすなか、生涯三度の津波被害(1926年の昭和三陸地震、1960年のチリ地震、そして2011年の東日本大震災)に遭ったにもかかわらず(あるがゆえでしょう)か、津波は海底を掃除する意味もある、といった発想をするのです。信心は人を前向きにします。そういう思いを人

にもってもらうのもお寺の大切な役割でしょう。

核家族化進み 廃寺増える世に

全国の寺院では、地縁・血縁が薄れ、核家族化が進むとともに、檀家制度は機能しなくなり、住職の収入は減少しています。そうしたなかで廃寺が増えている。どう生き残っていくのかは、とても大きな課題です。

男鹿市にあるコンビニエンスストアの数は1桁ですが、お寺の数は40近いとのこと。

「われわれは寺の経営のことをもっと考えなくてはならない」という住職ですが、このお寺は地元の方々に開放して、さ

(株)コミュニティネット **高橋 英 與**
 (たかはし・ひでお)

1948年岩手県花巻市生まれ。コーポラティブハウスや有料老人ホームづくりを経て、2006年コミュニティネット代表取締役就任。自立型高齢者住宅を中心とした団地・過疎地再生事業に携わり、現在は地方創生の最前線に立つ。主な著書に『コミュニティ革命「地域プロデューサー」が日本を変える』(彩流社)。



ままなイベントを開催しています。私が設立発起人の一人となり副会長を務める「生涯活躍のまち移住促進センター」が企画した、不登校児や引きこもりを支援するフリースクールのお試し移住ツアーも受け入れてくださいました。お寺との連携をぜひ進めたいと言って別れた次第です。